

はしがき

中国は「人治」の国であり、その過去・現在・未来の見極めは、ひとえにヒトの理解如何にかかっている。本書は中国を動かしている党と国家の指導者と組織・機構にかかわる人事データを集積した事典である。

本書の構成は、三つの部分からなる。

〔解説〕中国の党・政・軍指導者の資格・条件

〔前篇〕中国の党・政・軍指導者一覧

〔後篇〕中国の重要人物 820 人の人事ファイル

建国 60 周年の節目に際して、21 世紀中国総研は、中国の動向を注視している日本のチャイナ・ウオッチャーに本書を贈る。この 60 年は大まかに二つの時期に分かれる。前半は建国から文化大革命が終了するまでの革命と社会主義建設の時期であり、毛沢東が独裁した。後半は 1978 年に鄧小平によって市場経済へ転撤された改革・開放の時期である。集団指導体制がとられ、指導者としては胡耀邦、趙紫陽、江沢民、胡錦濤ら第三世代指導者が登場した。

経済体制は計画経済から市場経済に変わったものの、共産党独裁政治は貫徹し、高級幹部党员と行政官僚との複合体（党・政・軍複合体）が中国を牛耳っている。自国の中に南北問題を内包している中国は一つの世界であり、この脆弱な中華世界を統治するには集権的な強権を必要としていると見られる。

改革・開放 30 年の年平均経済成長率は 10% 近く、GDP は 14 倍に達し、本年中には日本を超え世界第 2 位に踊り出る。鄧小平が看破したごとく、発展こそが道理であり、成長が続くかぎり、一党独裁体制はゆるがない。

高橋博研究員が本書で分析しているように、中国共産党は極めて安定した指導者養成システムを作り上げている。胡錦濤—温家宝体制について、2008 年からは習近平—李克強体制が成立し、2 期 = 2018 年まで続くことが予測される。中共中央政治局のメンバーもほぼ予測可能である。

近年確立した、中共中央の指導者養成システムは、紀律検査委員会という浄化機関をもち、汚職退治を行い、権力闘争に敗れたものを生贄とし、党自身の自浄作用を遂行している。

中国共産党員は 7593 万 1000 人（2008 年末）。5 年毎に開催される全国代表大会の代表数は第 17 回大会の場合 2213 人。大会で選出される中共中央委員は、17 回大会では委員 204 人、候補委員 167 人、合計 371 人。中央委員会全体会議（総会）は中共中央総書記と中央政治局委員を選出し、17 期中央政治局は常務委員 9 人、委員 16 人を合わせて 25 人で構成している。中央政治局の中で中共中央の日常業務を担当するのが中央政治局常務委員会である。中央政治局委員は中共中央の最高権力機関として全国に君臨し、具体的には国家元首、全人代、中央政府、軍隊、地方党政機関の最高職を占めることによってそれらの機関を掌握し、ひいては中国人民に対する共産党独裁を全うする。

中国共産党のピラミット組織を上から見ると、最上部は総書記（1 人）—中央政治局常務委員会（計 9 人）—中央政治局会議（計 25 人）である。それを支える上端部分は中共中央委員会委員 204 名であり、その補助要員としての候補委員が 167 名、そして組織浄化員としての中央紀律検査委員 127 名がいる（三委員の合計は 498 名）。かれらを選出する党大会代表 2213 名は 5 年に一度だけ重要な役割を果たす。

本書における「重要人物」は、これらの組織・機構と人物群に着目して中国を動かす 820 人を厳選した（選出基準は「凡例」）。

本書の編集は、中国人事分析のベテランである高橋博研究員の助言の下に、21 世紀中国総研事務局員が遂行した。長期にわたる編集作業に携わった人々の名前を以下に列記する。

西出雅、阿比留公子、中村知子、村井弘明、姜成山、佟艶、朴盛華、李貞、金星海、董琪君、杜潔

2009 年 9 月 10 日 21 世紀中国総研事務局長 中村公省